

発行 日本共産党南知多支部



連絡先  
〒470-3321 南知多町  
内海内塩田77-3  
(南知多町議会議員)  
内田 保  
電話 0569-62-1816  
携帯 090-2776-7529

# 内田たもつだより

内田たもつ ホームページ  
<http://uchida-tamotsu.jimdo.com>



日本共産党発行  
**しんぶん 赤旗**  
日刊 3497円  
日曜版 930円

10月28日の師崎公民館のつどいでは、まず全国での集いのDVD「志位委員長が皆さんに答える」から、「●抑止力をどう考える? ●万が一の時自衛隊の「活用」はご都合主義? ●日本と中国の関係をどうする?」を視聴しました。  
その後、内田議員から9月議会の報告があり、意見交換がされました。



## 師崎

師崎観光センターは「まるは」や「大井毎日」等の入った会社が建替する計画だが、地元の師崎にはどんな恩恵があるのか? 篠島・日間賀島にばかり恩恵があるのではないかと心配している。



### 師崎って、突(とき)取(とり)捕鯨(ほり)の発祥の地だって!? (参加者Yさんの感想)

Mさんは、お寺の石仏に、クジラ突きの名人につける「太夫」名を発見してから、調べ、先祖が「クジラ捕鯨」をしていたことにたどり着いたそうです。



「私の何代前かのおじいさんはクジラ突きの一人で、『鯨一匹捕れば七浦潤う』のことわざ通り、クジラが村にもたらす利益は、大きな収益になったようです。今の師崎派出所の隣の空き地で、クジラの解体が行われていたそうです。また、日本で初めて突取捕鯨を始めたのは、1570年の師崎だとわかり、師崎を誇らしく思いました。1606年、師崎の漁師の伝次さんが、和歌山県太地にクジラ突きの技を伝授し、それから太地が有名になったそうです」

というMさんの話に聞き入りました。また、寺小屋時代の教科書や武士だったころの刀の写真なども見せていただき大盛り上がりでした。

ここ何年も不漁で、後継ぎも減っている南知多である。Mさんの話を聞くことで、何か自分でもやれることはないか、もっと南知多のことを知りたいという気持ちが湧いてきました。

また、祖先から受け継がれてきた住民の大切な財産である文化財をきちんと郷土資料館に保存、公開してほしいと思いました。

10月28日は師崎公民館、11月8日は豊浜公民館で町政を考えるつどいがありました。9月議会の報告を含めて、文化財・歴史資料保存・今後の農業のあり方・防災計画等意見交換がされました。参加してくださったみなさん、ありがとうございました。12月議会が6日から始まります。これからも町民のみなさんの声を町政に届けていきたいと思えます。そして内田議員まで連絡ください。2回の「つどい」の様子を参加者の感想を含めて概要を報告します。



# 「町政を考えるつどい」が開かれました



## 南知多の農業・漁業の再生のために



11月8日の豊浜の公民館のつどいでも、DVD視聴の後、内田議員から9月議会の報告があり、意見交換がされました。農業者や町づくりに参加している地元の方など沢山の参加があり、活発な話し合いが行われました。

## 豊浜

共産党の農業政策では、価格保証・所得保障を国に強く要求しています。農業所得に占める政府補助の割合は、スイス92%、ドイツ77%ですが、日本は30%しかありません。農林水産予算も1980年約12%が2023年約3%になり、農業や食料を自民党政権はいかに軽んじていたか明瞭です。38%の食料自給率を、当面50%に向けて、未来ある農・漁業を実現させましょう。

### 外国人農業定住者のAさんから

日本移住10年になる。今はイチジク栽培で苦労している。イチジクのジャムを作ったりして工夫している。新規就農の補助があったときは生活もできたが、人を雇う余裕もなく、多くのイチジク農家は資材費を引くと収入は減っていく。農業だけでは生活できない。国や自治体は農業とそこで働く労働者を見捨てるつもりなのではないか。(裏面)



### 防災計画の充実を

防災研修を年齢別に実施することも大事であると思う。また、美浜町に配置している防災官の役割は大きい。南知多町も防災官を配置し、防災の取り組みを進めてほしい。

### 危険な除草剤を禁止すべき

有機米づくりを促進し、田んぼ等に虫がもどってきたとの報告もあった。特に、日本で当たり前前に使用されている「ラウンドアップ」やネオニコチノイド類の除草剤は、自然破壊・発がん性からも問題であり、スペインやほとんどのEU等の外国では販売禁止されているのに、2017年に日本は大幅に緩和し問題である。有機農業を守るために、南知多町として規制してはどうかと思う。



### 豊浜のNPOを立ち上げている元議員の石黒正重さんから

農家・農業の未来についてのこれまでの経験に基づく要望や希望が語られました。



「日本の農業・漁業政策は、大規模農業・漁業を除き後継者不足でバラバラにされている。里山農業・里海漁業を復活させるための施策が必要である。特に、未来は、お金ではなく、楽しさと幸せを第一に考え、発想の転換があれば、家族や若者が引き継ぎ、未来が開けると思う。私自身は、お店づくり、野菜・コム・加工品づくりで、仲間とのコミュニティを大事にしながら広げている」

「また、南知多町で増えている空き家対策と耕作放棄地を農業として利用する提案をして、都会の元気な人に南知多町の優れた真骨の豊かな土地を利用して『南知多で健康な老後を過ごそう』プロジェクトを立ち上げたらどうかと思う」(裏面)